

2014 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	環境創造学部環境創造学科 Faculty of Social· Human Environmentology
評価基準 4	教育内容・方法・成果
中項目 4-4	成果 【自己評価 A】
点検・評価項目(1)	4-4-1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
点検・評価項目(2)	4-4-2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-4-1	環境創造学科は、ディプロマ・ポリシーとして、①社会科学を基礎に置き、既存の考え方に疑問を呈して、問題を発見し、解決していく能力を修得していること、②環境問題や生活問題を分析し、その課題と解決法を発表できるコミュニケーションとプレゼンテーションの能力を修得していること、および③社会貢献に役立つ語学・情報処理能力を身に付けていることを掲げており、その観点から卒業研究を重視している。卒業研究は文章作成(卒業論文)だけではなく口頭発表(プレゼンテーション)も評価対象として、卒業研究発表会を開催している。卒業研究発表会は各ゼミから代表を選出し行う学部行事であり、15 分間の中で発表とそれに対する質疑応答を行い、優秀発表者として表彰し啓発に努めている。 ・また、卒業時の卒業研究発表会だけではなく、1、2 年では入門ゼミ発表会を行い、学習意欲の啓発に努めている。入門ゼミ発表会は1、2 年の各ゼミから代表作を決め、代表者または共同研究者が、所定のレジュメを配布し、所定の時間内でプレゼンテーションを行う。内容、論理的思考、展開と効果などが評価される。教員がそれぞれの専門性からコメントを述べる。 ・学部卒業者の2 年から3 年へ進級判定合格率は 90.4%、卒業判定合格率は 90.0%(2013 年 3 月)、2014 年 3 月卒業者の就職決定率は 87.7%(就職希望者に対する就職者の比率)、卒業生に対する就職者比率は 74.2%である。
4-4-2	卒業認定は学則に定めた学位授与基準に基づいて学部教授会の判定により適切に行っている。特に「卒業研究」は問題発見、分析、記述など学部教育の集大成であり、最も重要な卒業要件とし、1 月末を締め切りで事務提出とし、学部教員全員が、目を通せる機会を設けている。

【効果が上がっている事項】

4-4-1	卒業生アンケート結果の分析によれば、学科で学んだ専門的知識や技術が身についたかという質問に対し、79%が肯定的に答えている。社会人・職業人としても必要な技能が同じような割合で身に付いたとしている。
4-4-2	

【改善すべき事項】

4-4-1	卒業アンケートの結果を見ると Q1「専門的知識が身についたか」（肯定的回答 70.5%）、Q2「社会人として必要な常識や技能が身についたか。」（肯定的回答 73.9%）、Q19.「あなたの知り合いに本学の入学を勧めますか」（肯定的回答 53.2%）。等の設問に対する回答が、他の学部より低い状況にあり、卒業生の満足度を高める必要がある。
4-4-2	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

教務委員会議事録。卒業式でのアンケート調査報告書。『FD 報告書 2013 年度』（大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント委員会編）。授業評価アンケートの DVD『学生による授業評価と大学教育 2013 年度』。
--

《指標データ》

データ集（表 6）開設授業科目における専兼比率

（表 7）卒業判定

（表 8）大学院における学位授与状況

（表 9）就職・大学院進学状況

（表 10）公開講座の開設状況

（表 11）学生の国別国際交流

（表 12）海外への派遣学生数

（表 13）国別留学生数（学部別）の経年変化

（表 14）教員・研究者の国際学術研究交流

（表 15）国際交流協定締結機関数・締結国数

（表 16）カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度

（表 17）各年次の履修登録単位数制限の状況

(表 1 8) 卒業要件単位に占める比率

(表 1 9) 履修者数規模別の授業コマ数

(表 2 0) 学生の授業評価の実施率 (大学、学部別)

(表 2 1) 学生の授業評価において「当該授業が主体的な参加を促す授業であったかどうかに関する質問 (Q13)」に対する肯定的な回答比率

(表 2 2) 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問 (Q20) への肯定的な回答比率

(表 2 3) 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問(Q8)への肯定的な回答比率

Ⅲ 【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標			評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	4・4・1 卒業時の満足度の向上 上記の目標達成のためには学生教育 に対する総合的な取り組みが必要と なる。 なお現状(2014 年 3 月卒業)は以下の 通り Q1「専門的知識が身につくか」(肯 定的回答 70.5%)、 Q2「社会人として必要な常識や技能 が身についたか。」(肯定的回答 73.9%)、 Q19.「あなたの知り合いに本学の入 学を勧めますか」(肯定的回答 53.2%)。	専門的知識に対する満足度の向上 (卒業アンケートの項目：Q1「専門的知 識が身につくか」) (目標：肯定的回答 90%)	→				
		社会的知識・技能に対する満足度 (卒業アンケートの項目 Q2「社会人として必要な常識や技能が身 についたか。」) (目標：肯定的回答 90%)	→				
		総合的に見た学部評価 (卒業アンケートの項目： Q19.「あなたの知り合いに本学の入学を 勧めますか」。 (目標肯定的回答 80%)	→				
14 年度 目標	4・4・1 卒業時の満足度の向上 初年度として、実現可能性を考えて 目標設定を行った。	専門的知識に対する満足度上 (卒業アンケートの項目：Q1「専門的知 識が身につくか」) (目標：肯定的回答 75%)	→	A			
		社会的知識・技能に対する満足度 (卒業アンケートの項目 Q2「社会人として必要な常識や技能が身 についたか。」) (目標：肯定的回答 79%)	→	A			
		総合的に見た学部評価 (卒業アンケートの項目： Q19.「あなたの知り合いに本学の入学を 勧めますか」。 (目標：肯定的回答 60%)	→	A			